

第4回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：令和元年11月11日（月） 16：30～18：30

場所：保健相談センター 講堂

日程

1. 開 会
2. 会長挨拶・事前説明
3. 模擬審査会
4. ワールドカフェ
5. 総評
6. 市民活動推進補助金の審査
7. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾 勝 松本信子
渡邊冬樹 門脇京子 糸川 諒 足立 勲

（アドバイザー）

毎熊浩一（島根大学法文学部教授）

（高校生・大学生）

鳥取県立境高等学校 生徒13名

鳥取県立境港総合技術高等学校 生徒8名

島根大学法文学部 学生 11名（うち委員1名含む）

（事務局）

築谷俊三（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長）

木村 哲（地域振興課企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主任）

（傍聴者）

2名

欠席者（敬称略）

松田真二 遠藤 緑 岩本和貴

<開会>

16:30 会長挨拶・事前説明
(事務局)

定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第4回境港市みんなでまちづくり推進会議・高校生と大学生とのワークショップを開会いたします。本日はお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は本日の進行をいたします、地域振興課の渡部と申します。よろしくお願いいたします。

まずはスタッフを紹介いたします。地域振興課長です（地域振興課長の沼倉です）、地域振興課の木村です（木村です、よろしくお願いいたします）。

また、本日は、本推進会議のアドバイザーでいらっしゃいます島根大学法文学部教授 毎熊浩一先生に来てもらっております（毎熊です、よろしくお願いいたします）。

それでは、まずは本推進会議の会長にご挨拶をいただきいただきます。松本会長よろしくお願いいたします。

(会長)

皆さん、こんばんは。みんなでまちづくり推進会議会長の松本です。本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

私たち「みんなでまちづくり推進会議」では「U・Iターンをしたくなるまちづくり」を今期の取り組みテーマとして協議を進めております。

本日は、ご案内のとおり、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について、お集まりの皆さんとワークショップをしたいと思います。開催にあたりましては、アドバイザーの毎熊浩一先生には、ご助言を賜り誠にありがとうございました。また、快くご快諾いただいた各校の先生方や、ご参加いただいた生徒さん、学生さんに感謝申し上げます。

本日お越しいただいているメンバーは、私を含めたみんなでまちづくり推進委員9名、アドバイザーの毎熊浩一先生、鳥取県立境高等学校の生徒さん13名、鳥取県立境港総合技術高等学校の生徒さん8名、そして、島根大学法文学部の学生さん11名（うち1名は委員）であります。

どうか皆さん、あまり固くならず、率直な意見交換をしていただければと思います。それでは、本日はよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続いて、本日の会について説明いたします。

この高校生・大学生とのワークショップは昨年に続いて2回目の開催になります。昨年は、ワールドカフェというワークショップをして、高校生や大学生と将来のことや地元・境港の良いところ・悪いところなどざっくばらんに意見交換しました。ただ、昨年は、意見交換といっても、あくまで高校生・大学生から意見を引き出すということに重きを置いた会でしたので、高校生に対して、委員の思い、境港で暮らす大人の思いというのは果た

して伝わったのか、という課題も残りました。というわけで、今回は、その際、出た意見を抽出しまして、委員と大学生から、それに対して、大人の「異見」を伝えてもらう、それに対して、高校生の方で、審査をしてもらうという形式にしました。「異見」という字の”異”という字が異なるという字になっているのがミソで、この「異見」という字には「異なった見解」という意味があります。意見と意見を戦わせるのではなく、異なった視点から話をしてみるという試みです。

流れとしては、このあと、まず模擬審査会を行います。模擬審査会では、委員と大学生から4つのテーマについて、大人の異見をプレゼンテーションしていただきます。そのあと、高校生には採点をしていただきます。このあたりは、その都度、進行の中でご説明していきます。

模擬審査会のあとは、ワールドカフェです。ワールドカフェでは、それぞれのテーマについて、委員・高校生・大学生みんなで話し合っていきます。

終了時刻は18時30分を予定しています。簡単ではありますが説明は以上です。このあとの進行はアドバイザーの毎熊先生にお願いしたいと思います。

16:35 模擬審査会

(アドバイザー)

よろしくお願いします。今日は分刻みのスケジュールなんですが、それをその通りにやってしまうと苦しいので、ゆっくりやっていきましょう。先ほど、お話にあったように前半は高校生の皆さんが採点をしていただく形です。昨年、高校生の方と話したときに、「境港ってつまらんよね」って意見が多かったです。だけど「そうでもないぜ」っていうのを大学生と委員さんがプレゼンしますので、「なかなかいいじゃないか」っていう”共感”の点数をつけてもらいます。5点満点ですので、ものすごく共感したっていうのは5点、だめだっていうのは1点。0点はありませんので、1点はつけてくださいね。これを17時半までやります。模擬審査会って難しい言い方をしていますが、大人のプレゼンを聞いてもらって採点をしてもらうだけ。でも、ただプレゼン聞くだけじゃ分からないところもあるだろうから、その都度、質問してもらおうと思っています。先ほど、引率の先生から「しっかり喋ろよ」って言われてた子もいましたが、皆さん、しっかり喋ってください。

とはいえ、まだまだ難しいと思いますので、まずは、なぜ皆さんに「気になる有名人」を書かせたか、書いたよねみんな。まずはその書いた付箋を取ってください。その付箋を自分の名札の上に貼ってください。これ今日の名前ね。いやだって聞こえたけど。僕は「中村」。知らないの？境港に住んでいて「中村」を。(高校生から「市長」の声)そう、中村市長です。素晴らしい。松江の高校生は知らんだろうけど。中村市長さん、今期で辞められるということで残念だなと思いつつ、このあと何されるのかなというのが気になって。ということで、今日僕は中村です。

では、準備いいですか。「楽しくない」について、まず大学生がプレゼンします。

(大学生プレゼン要旨)

- ・ 昨年のワークショップでは「遊ぶところがないので楽しくない」という意見があった。
- ・ しかし「遊ぶところがない」というのは逆にチャンスである。
- ・ 新しい楽しみを発見するのも「楽しみ」
- ・ そこで「隠れスポットを探す」「歴史を調べてみる」を提案
- ・ まちを散歩して「隠れスポット」を探し、グルメや神社を巡る。
- ・ 境港のグルメは市外から海鮮丼を食べにくる人がいるほど。神社は御朱印巡りがブームになっている。
- ・ 歴史を知るということは、境港の新たな魅力を知ることにもなる。

(委員プレゼン要旨)

- ・ 三方が海に囲まれていて、近くには大山もあり、海・山という自然がある。境港では、ヨットができるし、皆生に海水浴場もあるし、大山でスキーもできる。
- ・ 水族館はないが、海とくらしの史料館というほかにはない、はく製の博物館がある。
- ・ カニは有名で、東京からツアー客が来るほど。多くの観光客が境港市に来ている。

(アドバイザー)

それでは、高校生の方から聞いてみたいことはありますか。

(高校生)

「新しい楽しみを発見する」と言っていたけど、高校生は「ここに行きたい」という気持ちになって遊びに行くと思うし、食べ物も、境港は魚とかになるので、魚食べに行こうってなる高校生はいない。もう少し、高校生・中学生に向けた楽しめるところがあると良いと思いますが、どう思いますか。

(大学生)

非常に痛いところを突いていただいてありがとうございます。確かに、魚とかは今は興味がないかもしれませんが、県外の方と話す機会や県外へ観光に行く機会がこれから先あると思いますので、そのときに、境港の海鮮っておいしいよなってことを感じていただけたら、良いと思います。

(アドバイザー)

このあと、意見交換で色々な話ができると思いますので、ひとまずこれで。委員さんからもありますか。

(委員)

うちの子が都会の大学に4年ほど行っていました。寿司が好きで、食べに行ったん

ですが、うすっぺらい透けて見えるようなネタで、こっち来ると分厚い。おいしい。魚以外のことだと、大山町にイノシシとシカの処分場ができました。米子の方では店でも出始めていますが、こちらの方でも食べられるようになるんじゃないでしょうか。

(アドバイザー)

ありがとうございました。では、「暮らしづらい」について。お願いします。

(大学生プレゼン要旨)

- ・ 昨年のワークショップでは「電車やバスの本数が少ない」という交通の不便さにより、暮らしづらいという意見が多かった。
- ・ 具体案として、提示したいのが、まずは「運送用ドローン」。
- ・ 無人機を使うことで、輸送にかかる人手や手間を減らすことができる。有名なのが、amazon が開発している配達ドローン。身近なところでは、島根県美里町で、まち全体でドローンを使って物資を輸送する計画があるとのこと。
- ・ もう一つの提案が「シェアリング」。
- ・ 身近な例では、図書館で本を借りて、用事が済んだら返すこと。
- ・ 実際、自動車や自転車などある程度サービスが普及している。海外では、電動キックボードという学生でも簡単に乗れる乗り物が普及していて、自転車よりも楽に安く導入できるものもある。
- ・ 境港ではこういう技術が有効だと思うので、みなさんでも調べてほしい。

(委員プレゼン要旨)

- ・ 市内東西南北 15 分で行けるコンパクトシティ。小さい町だが、空港あり、税関ありと主要な機関があり、港があり、船が海外にも出ている。
- ・ 災害に強いところも利点。
- ・ 交通の便では、確かに、JR は 1 時間に 1 本。ただ、はまループバスの 10 代の利用は無料などサービスを充実させれば、多少便利は良くなる。

(アドバイザー)

高校生から質問はありますか。

(高校生)

僕は米子から境線に乗って通っているんですが、1 時間に 1 本しかなくて、部活が終わって、乗り遅れたら 1 時間待つことになって、走って駅まで行くことがよくあります。なので、シェアリングは良いと思ったんですけど、それでも、サッカー部はすごい人数が多くて、車では足りないと思います。自転車にしても、サッカー部のみんなが駅まで自転車で行くと迷惑になります。なので、電車の本数を増やすのが一番良いと思うんで

すけど、どうでしょうか。

(大学生)

中高生の方は通学の時間が重なってしまうから、人数が多くなってしまうますが、電車の本数を増やすよりは、シェアリングのものを増やすほうが費用は安くなります。でするので、実際に、解消しようと思うなら、シェアリングの方が実施しやすいと思います。

(アドバイザー)

では、続きは意見交換の方で。続いて「誇れない」について、お願いします。

(大学生プレゼン要旨)

- ・境港には「魚」と「妖怪」しかないという意見があったが、自分からすると新鮮な魚と鬼太郎はとても誇れる魅力。「2つしかない」のではなくて、「2つもある」と考えを転換してはどうか。
- ・また、境港ばかりを見るのではなく、他の自治体と比べてみると新しい魅力に気づくことができるのではないかな。他人がどう思うかではなく、自分にとっての誇りが見つけられたら良い。
- ・境港の魅力に気づくことが大事。地元のイベントに参加したり、観光地を見て回することを提案したい。
- ・地元にいるからイベントや観光地には行かないかもしれないが、みなと祭には約45,000 人の人が来ているし、観光地には何かを求めてくる人たちがいる。その何かが分かれば、魅力の再発見につながる。
- ・ここでの生活を当たり前と思ってしまうと思うが、新鮮な気持ちを持てれば、新しい魅力が見つかるはず。なので、イベントや観光地に行くという簡単なことから始めてほしい。

(委員プレゼン要旨)

- ・「誇れるまち」ってどういうまちなんだろう。どこのまちだったら誇れる？
- ・東京にも大阪にも親戚がいる。境港はすごく羨ましがられるまち。
- ・空港も漁港もターミナルもあり、新しいターミナルも来年できる。2,500m の滑走路がある空港はこの中国地方にはここだけ。海外に飛び立てる空港が境港にはある。
- ・「魚」と「妖怪」しかない。「魚」と「妖怪」があるじゃないか。何もなかったところにさっき言ったようなことが充実してきた。それらをどう生かすか、それを若い皆さんからアイデアをいただきたい。
- ・整備が充実して、海外からの観光客はまだまだ増える。船で来た方は半日しか時間がない。そこで興味を持ってもらうまちにしていこう。そして、今度は、空港を利用して1日とか1週間とか過ごしてもらえらるまちにしていこう。そこを皆さんと一緒に考えた

いし、これからのまちを作るのは、皆さんの手にかかっていると思う。よろしくお願いします。

(アドバイザー)

ご質問ある方は。

(高校生)

イベントにいつてほしいという意見でしたが、そもそも若い人は自分で行こうという気分にならないと思います。待っているだけで分かる魅力があれば良いですけど、行かないと分からないじゃないですか。だから、若者向けではないと感じました。なんて言ったらいいか…。行かずとも分かる魅力があればいいのかなと思いました。

(大学生)

観光地やイベントというのを挙げたのは、私も地元に誇りを持ってなくて、イベントやわざわざ観光地に行ったりすることのない高校生だったんですけど、大学生になって、帰省したときとかに家族と行ってみたら、すごく綺麗な桜があるところだったり、人がたくさん来ていることが分かったからです。受身で見つかる魅力という具体例は思いつきませんが、行こうという気持ちになるまでには時間がかかるかもしれないですけど、行ったら魅力が見つかると思っていただいて、ちょっとでも足を運んでいただけたらと思います。

(委員)

難しい問題だと思うんです。ただ、今までこういった場所さえ持てなかった。こうやって色々話すことによって、参加してみようって気が出てくると思うんですよね。だから、こういう機会を作っていくことが大事じゃないかなと思います。

(アドバイザー)

ありがとうございます。では、最後です。「働けない」です。お願いします。

(大学生プレゼン要旨)

- ・「働く場所がない」という意見が多いですが、境港で働いている人は16,000人くらいいる。働く場所がないわけではない。
- ・また、テレワーク・在宅ワークができるので、境港にいて都会の仕事をすることもできる。
- ・どんな企業がいるかを探してみることも楽しい（境港の企業を2社紹介）。これらを調べるのはネットで簡単にできるし、境港に住んでいれば、実際にまちを歩いてみることもできる。散歩とかに興味がないとのことだったが、鳥取の企業ガイドという本

もある。家にいても本やネットで情報収集ができるので、おすすめしたい。

(委員プレゼン要旨)

- ・境港には空き地がたくさんあるので、空き地を活用して起業するという方法もある。
- ・農地も多くあり、20代で白ねぎ農家を始める人も最近は多くいる。地元の特産で家族を養い、境港を白ねぎで有名にしたいという志を持った人も中にはいる。
- ・境港の海や自然を生かした分野というのは、今後、AI が普及しても、取って代わられない分野。そういう将来性も考えてみても良いかもしれない。
- ・自分の夢や希望が叶えられないということであれば、都会に出ても構わない。自分も最初は都会に出たが、家の都合もあり、戻ってきた。境港について全然知らなかったが、親や会社の関係や JC、PTA、消防団などを通して、まちのことを知った。困ったとき相談できる人ができたし、仕事に繋がる関係もできた。そういった関係は地元ならではのと思う。
- ・また、親と同居したり、近くに住むことで、子育て世代のときには、親に子どもの面倒を見てもらったり、将来、介護が必要になった際には見てあげることもできる。幸せの連鎖ができていく。
- ・先ほど、2社紹介があったが、他にも市役所や美保基地など、まちのためにがんばっているところがあり、やりがいがある。
- ・コンパクトシティなので、通勤は自転車や徒歩も可能だし、お昼には自分の家に帰って食事を取ることもできる。時間的余裕もあり、趣味に力を入れることもできる。
- ・がんばれば、年収1千万稼ぐ人もいる。家族を豊かに、まちを豊かにする人が1人でも増えれば良いと思うので、一緒に頑張っていきましょう。

(アドバイザー)

ご質問ある方は。

(高校生)

境港で働く上で専門的な知識や免許が必要なこともあると思うのですが、多分野で活用できるような職場が境港では少ないと思いますがどうでしょうか。

(委員)

水産業や物流関係や色々な企業がありますが、総務系や事務系の仕事もあります。ただ私が思うのは、いま高校生や大学生のうちに自分の得意なこと、ご飯を食べるのも忘れるくらいのことを見つけてください。そこを伸ばすことができればどういう企業のどういう部署で働くのが良いかも見つかると思います。やっぱり好きなことは飽きないです。また、AI の時代になると色々な仕事が淘汰されていくことも考えられますので、仕事をしながら長い期間で目標を定めて、英語とか IT とか色々な技術を身につけるこ

とが出来れば、そんな人は将来年収1千万も夢じゃないと思いますので頑張ってください。

(アドバイザー)

はい。ありがとうございました。

それでは、これでプレゼンは終わりにして高校生の皆さんは採点をしてください。それでは、1回休憩をはさみます。

17:35 ワールドカフェ

(アドバイザー)

それでは、それぞれのグループで先ほどのプレゼンを手掛かりにそれぞれの決まったテーマについて、「さっきのプレゼンここが良かった」とか「共感できん」とかそんな話をしてもらえば良いと思います。10分ちよっとしたら、その話は終えて、移動してもらいます。できれば、自分が話した意見とかをメモってもらいたいなと思って模造紙を用意しています。完全にメモなので、キーワードだけ買ってもらってもOKです。

採点の集計はできましたでしょうか。それでは、先ほどのプレゼンについて、5点満点の平均点を発表してもらいます。大学生、模造紙の真ん中に点数を書いてください。

(事務局)

発表します。まず、①「楽しくない」3.2点、②「暮らしづらい」3.9点、③「誇れない」3.9点、④「働けない」3.8点。以上です。

(アドバイザー)

ということで、大体みなさん優しいのかな。比較的共感してもらったようです。本音をぶつけてくださいね。「散歩なんかするかよ」とかそういう意見をぶつけてください。

それでは、始めてください。

(10分後) それでは1回目終了しましょうか。では、移動してください(これを3セット)。

それでは、短かったかもしれませんが、これで終わりにしましょうかね。最後、振り返りをしたいと思います。

18:20 総評

(アドバイザー)

では、10分くらい使わせてもらって、参加者からの感想をいただきたいと思いますが、まず今日のねらいを改めて。我々、委員や境港市役所としてはできるだけ境港にいる人に

は残ってもらいたいし、外にいる人には来てもらいたい、そのための施策を考えていくんですけど、その手掛かりを皆さんからいただきました。情報収集をしたかったというのがねらいです。皆さんにとっては、大きく分けて2つの出会いになれば良いなあと思いました。1つは当然、人との出会い。大学生だったり、大人の方、お父さん・お母さんくらいの世代の方かもしれないけれども、そういう人たちと出会うことで何か気づきがあれば良いなあと思いました。もう1つは、別の見方です。皆さんも若いなりの見方をお持ちでしょうけど、大学生は大学生ならではの見方があるし、大人は大人ならではの見方があると思います。そういう新しい見方に気づいてほしいなと思いました。では、そういう気づきがあったか、聞いてみたいと思います。全員は無理ですが、誰か言ってみたいという人はいますか。「今日こんなこと分かった」とか「なんも気づかんかった」というご意見でも。

(高校生)

私はこの活動に参加するの3回目なんですけど、毎回、普段関わることのない委員の方や大学生の方と関わることでできて良い経験をさせていただいています。私たちの意見がこれからの境港の活性化に繋がれば良いなあと思いました。

(アドバイザー)

ありがとうございます。3回目というのは議会のもですか。とりあえず、今日はどうでしたか。

(高校生)

前回の意見を生かして、話し合うというのが良かったです。

(アドバイザー)

そう言ってもらえると、大変嬉しいです。ありがとうございます。ほかにどうですか。

(高校生)

高校生と大学生と大人の人で、世代の違う人の意見を聞いて、例えば、「暮らしづらい」の話し合いだったら、遊びに行くという面で暮らしづらいという意見があったけど、大人の方は都会と比べてゆったりしているというところで暮らしやすいという意見を言っていて、全ての年代の人に暮らしやすいまちづくりというのはまだまだ時間がかかると思うけど、暮らしづらいというところも問題点としては、交通の面だけだったので、多少はできるんじゃないかなと思いました。

(アドバイザー)

ありがとうございます。ほかに誰かいませんか。

(高校生)

自分は米子に住んでいますが、今回この会に出て、改めて境港市の良いところも知れましたし、米子についても、誇れるところとか都会と比べてどうだろうと、自分の地元を見直す良いきっかけになりましたので、良い会だったなぁと思いました。

(アドバイザー)

ありがとうございました。では、もう1人。

(高校生)

今回参加してみて、「楽しくない」の班での話なんですけど、「楽しくない」っていうのがみんなの共通理解みたいになってたところもあると思うんですけど、一方で、楽しくないわけでもないという意見もあって、良さを認めている高校生もいるんだなと分かったのは良かったです。そういう人たちを引き留めるような施策が今後必要とされてくるんじゃないかなと思いました。

(アドバイザー)

ありがとうございました。では、もう1人。

(高校生)

本日はこのような会に参加させてもらいありがとうございました。時間も押していると思いますので、手短に。境港を良いまちにするためにがんばってください。がんばりましょう！

(アドバイザー)

ありがとうございます。最後に言い直したのが良かったね。「がんばりましょう」と主体的になったよね。

～総評～

(アドバイザー)

では、最後に僕が何か喋るんですね。では、ひと言だけ。昨年も申し上げたのですが、こういう会は、境港で人を増やす・あるいは維持するためにやっているのですが、別に皆さんに境港に残ってもらわなくても良いと思っているんですよ。僕自身は。市役所の人は違うかもしれませんよ。僕自身、子どもが高校2年生です。親としていてほしいんだけど、自分の子どもにとって、一番活躍できる・一番ハッピーな場所が別にあれば、それは松江じゃなくても、境港じゃなくても構わないわけです。学校の先生もそう思ってるはずなんですよ。みんなの可能性を一番引き出すのが教育の役割なので。だから、「残れ」とか「戻ってこい」とか言うつもりはないですよ。ただどこに行くにしても一面的な見方だけでし

て、「境港ってつまらんよね」とか、逆に「境港ってものすごい良いところばかり」とかっていう一面的な見方だけっていうのも寂しい。だから、色々な見方を学んで、それから選択したら良いと思うんで、まだまだ皆さんは若いアンテナしか持っていないと思うんですけど、色々なアンテナが世の中にはあるので、それを知ってもらう良い機会にしてもらえたらと思っていました。

それで、よく言われますけども、「発見」というのは新しい土地を見つけることじゃなくて、土地を新たな見方でつけることだって言われます。そうすると、1つじゃないよね。色々なものの見方ができれば、色々な発見ができるわけですので、ぜひ色々なものの見方をしていただければと思います。そのためには色々な人と会うこと、あるいは色々な本を読むことでそういうことが学べると思いますので、今日はそういう機会になれば良いと思います。それでは進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

(事務局)

毎熊先生、ありがとうございました。それでは、最後に事務局を代表しまして、境港市総務部長より一言申し上げます。

(総務部長)

皆さん、こんばんは。この4月から総務部長をしております築谷と申します。他の会議が重なりまして、皆さんのプレゼンを全て聞くことができなくて、ワールドカフェの方も別の案件のトラブルで見ることができなかったのですが、皆さんが明るく色々な意見を交わされて、今私が話しているのを一生懸命見てくださっているところを見ると、きっと良いプレゼンだったんだろうなあ、きっと良いワールドカフェで良い意見交換ができたんだろうなあと簡単に想像できます。本当にお忙しいところ、毎熊先生を初めとする島根大学生の皆さん、境高校、境総合高校の皆さん、本当にありがとうございます。私も30年前は大学生、40年前は高校生だったのですが、そのときの気持ちをすっかり忘れています。皆さんの意見を色々聞けたので、これをまた境港市政に何等かの形で生かしていけたらなあと思っております。今日は本当にありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、以上で全ての行程が終了しました。学生の皆さんはお手元のアンケートに記入をお願いします。事前にアンケートを書いていたのですが、今から書いていただくのは、「事後」のアンケートになります。出口に回収ボックスがありますので、そちらに提出してから、お帰りいただきますようお願いいたします。なお、委員の皆さんはこの後も会議がありますので、しばらくの間、休憩していただいて18時45分にはお戻りいただきますようお願いいたします。

以上で、第4回みんなでまちづくり推進会議・高校生と大学生とのワークショップを終了します。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました。